

年次計画

| 平成28年度      |   |
|-------------|---|
| <b>目標</b>   | <p>文理連携型による研究推進をヘッドクォーターを中心に開始する。具体的には、がんと老化、認知症の克服および再生医療による遺失機能の補償の基礎研究を推進するとともに、医療関係者との定期的な情報交換システムを構築する。また、それらで得られた交流成果を社会へと還元するシステムの構築についても議論する。</p>   |
| <b>実施計画</b> | <p>①研究プロジェクトの推進－理学部生命科学科の教員が「認知症、がんの克服および再生医療による遺失機能の補償の研究」に着手する。エピジェネティック解析システムを設置し、研究に活用する。主な研究テーマは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連「加齢に伴う海馬過活動の原因解明と治療薬開発」</li> <li>・がん関連「DNA損傷ストレスがテロメア構造不安定化を引き起こすメカニズムの解明」</li> <li>・老化関連「モデル生物ショウジョウバエの老化状態に認められる様々な生理特性の解析」</li> <li>・関節再生関連「関節の腱の再生メカニズムの解明」</li> </ul> <p>②文理連携の推進－若手を含む生命科学・人文科学・社会科学・健康科学の研究者を交えて研究会を開催し、フロント科学の現状を把握するとともに、現在の超高齢社会における社会基盤の問題点に関して議論する。</p> <p>③医療分野との研究交流－慶應義塾大学医学部のグループとの交流セミナーを開始する。具体的には、上記研究の担当者および本学の理学部生命科学科の教員らが、慶應義塾大学医学部にて基礎研究の進捗状況の報告を行うとともに、医療現場の研究者との意見交換を行う。それらを通じて、基礎研究への新たな取り組みを推進するとともに、今後の医療分野への応用についてのアイデアを作り上げていく。それらの成果をもとに、今後の研究交流・連携システムの構築についても議論する。</p> <p>④研究成果の公表－新たに立ち上げた本事業による取り組みと研究成果の一部を広く一般市民の方々に知っていただくため、平成28年12月17日(土)午後「高齢化社会をサイエンスとして考える」と題した公開シンポジウムを開催する。具体的には、ショウジョウバエをモデルに老化研究をしている首都大学東京都市教養学部の相垣敏郎教授、本事業の医療分野での連携先となる慶應義塾大学医学部の岡野栄之教授、ゴリラ社会における高齢者の役割研究の第一人者である京都大学・山極壽一総長を招聘し、講演とパネルディスカッションを実施する。本シンポジウムには、学習院大学の理系・文系にかかわらず多くの教員・学生に参加してもらい、ブランディング事業への全学的な一体感を喚起する機会とする。また、本シンポジウムには、慶應義塾大学の医学部関係者にも参画してもらい、研究交流会議も開催する予定である。</p> <p>なお、研究成果の評価については、本事業の研究実施組織である「2016研究ブランディング事業推進部会」が作成する「研究成果報告書」に基づき、「2016研究ブランディング事業自己点検・評価部会」および「2016研究ブランディング事業外部評価部会」による聞き取り調査（事前の書面調査を含む）を1回実施し、年度としての項目別評価と総合評価とをS・A・B・Cの4段階で行う。</p> |
| 平成29年度      |   |
| <b>目標</b>   | <p>健康寿命の延伸を目指し、認知症対策、がんと老化、再生医療などの基礎研究を強化し、医療関係者との交流事業と、それらで得られた成果の社会還元を推進する。</p>   |
| <b>実施計画</b> | <p>①研究プロジェクトの推進－健康寿命の延伸を目指し、引き続き基礎研究を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連「認知症で観察されるタウ凝集機構解明」</li> <li>・がん関連「細胞分裂の際にDNA損傷の蓄積を最小限にする細胞リノベーション機能の解析」</li> <li>・老化関連「消化管に認められる組織幹細胞腫瘍ほかの老化症状を制御する遺伝子の探索」</li> <li>・関節再生関連「マウスにおける関節の腱の再生の惹起」</li> </ul> <p>②文理連携の推進－生命科学のフロント科学がもたらす恩恵と、それにより発生が想定される社会的な諸問題の両方について、人文科学・社会科学・健康科学それぞれの視点から議論する。</p> <p>③医療分野との研究交流－慶應義塾大学医学部のグループとの交流セミナーを定期的に開催し、医療分野との情報交換を推進する。</p> <p>④研究成果の公表－公開シンポジウムを年2回開催する。第1回（5月予定）では、学内の研究成果を中心に構成して議論する。第2回（11月予定）では、学外の研究者を招聘し、学外との情報交換をすることで本事業の強化を図る。</p> <p>なお、研究成果の評価については、本事業の研究実施組織である「2016研究ブランディング事業推進部会」が作成する「研究成果報告書」に基づき、「2016研究ブランディング事業自己点検・評価部会」および「2016研究ブランディング事業外部評価部会」による聞き取り調査（事前の書面調査を含む）を1回実施し、年度としての項目別評価と総合評価とをS・A・B・Cの4段階で行う。</p>  |
| 平成30年度      |   |
| <b>目標</b>   | <p>生命科学分野においてはビジビリティの高い研究成果を目指すとともに、この時点での医療分野との交流事業による研究成果を整理する。その結果を踏まえ、この時点において予測される恩恵と社会問題について、文理連携による統合的な議論を開始することにより、さらなるプロジェクトの推進を目指す。研究成果の公表についても引き続き積極的に取り組む。</p>  |

|   |   |
|---|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p> | <p>①研究プロジェクトの推進ー引き続き以下の基礎研究を推進するとともに、中間評価までに設定した目標の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連「タウ凝集に伴う神経細胞死機構の解明」</li> <li>・がん関連「L O H（ヘテロ接合性の喪失）および異数体の誘発メカニズムの解明」</li> <li>・老化関連「非老化時の前立腺に認められる細胞死抑制の際に働く遺伝子の探索」</li> <li>・関節再生関連「関節軟骨の再生メカニズムの解明」</li> </ul> <p>②文理連携の推進ー「フロント科学の成果を社会へ還元する仕組みを構築するにあたっての問題点」をテーマに、生命科学・医療・人文科学・社会科学・健康科学分野の研究者により、統合的に議論する。</p> <p>③医療分野との交流ー慶應義塾大学医学部のグループとの交流セミナーを継続的に行い、医療関係者へのフィードバックを強化する。</p> <p>④研究成果の公表ー公開シンポジウムを年2回開催する。第1回（5月予定）では、「健康寿命の延伸とその影響ー哲学・心理学からの提言」と題して、学内外の研究者によって議論する。第2回（11月予定）では、生命科学分野の学外研究者を招聘し、議論を深める。</p> <p>なお、研究成果の評価については、本事業の研究実施組織である「2016研究ブランディング事業推進部会」が作成する「研究成果報告書」に基づき、「2016研究ブランディング事業自己点検・評価部会」および「2016研究ブランディング事業外部評価部会」による聞き取り調査（事前の書面調査を含む）を1回実施し、年度としての項目別評価と総合評価とをS・A・B・Cの4段階で行う。</p> <p>以上の成果をもとに、中間評価に臨む予定である。</p>  |
| <p><b>平成31年度</b></p>  |   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目標</p>   | <p>3年間の基礎研究の成果を踏まえ、生命科学分野については、引き続きビジビリティの高い基礎研究を継続的に推進する。また、その時点で議論すべき恩恵と社会的問題について、さらなる超高齢社会の近未来に対応可能とするためにどのような方策が必要か、文理連携の統合的な議論を開始する。</p>   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p> | <p>①研究プロジェクトの推進ー以下の基礎研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連「認知症治療を目指したタウ凝集阻害剤のスクリーニング」</li> <li>・がん関連「慢性的なDNA損傷ストレス環境下においてチェックポイント活性化を抑制する適応メカニズムの解明」</li> <li>・老化関連「老化時の前立腺のみに認められる細胞死誘導能の原因遺伝子の探索」</li> <li>・関節再生関連「マウスにおける関節軟骨の再生の惹起」</li> </ul> <p>②文理連携の推進ーさらなる超高齢社会の近未来を想定し、必要となる社会制度改革や法的整備などについて、生命科学・医療・人文科学・社会科学・健康科学分野の研究者による具体的な議論を開始する。</p> <p>③医療分野との交流ー医療分野との交流事業をもとに、基礎研究の進展が医療現場に反映された場合に、どれだけ健康寿命などの延伸が期待できるかを提示する。</p> <p>④研究成果の公表ー年2回開催を予定している公開シンポジウムにおいて、超高齢社会の近未来に対応可能な社会基盤の考え方について一般市民の方々にも提示し、意見聴取を行う機会とする。</p> <p>なお、研究成果の評価については、本事業の研究実施組織である「2016研究ブランディング事業推進部会」が作成する「研究成果報告書」に基づき、「2016研究ブランディング事業自己点検・評価部会」および「2016研究ブランディング事業外部評価部会」による聞き取り調査（事前の書面調査を含む）を1回実施し、年度としての項目別評価と総合評価とをS・A・B・Cの4段階で行う。</p>  |
| <p><b>平成32年度</b></p>  |   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目標</p>   | <p>最終年度にあたり、健康寿命の延伸のための基礎研究を継続しつつも、これまでの研究成果をもとに、さらに加速する高齢化を見据え、近未来に到来することが確実なさらなる超高齢社会に対応可能とするための社会基盤の整備に向けた提言を行う。また、新たな学際領域としての&lt;生命社会学&gt;の創成が可能と判断されれば、5年間の成果として学内のカリキュラムなどに反映することを検討する。</p>   |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施計画</p> | <p>①研究プロジェクトの推進ー以下の基礎研究を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連「認知症における神経炎症の発症機構と阻害剤開発」</li> <li>・がん関連「損傷ストレスに伴う代謝機能変化や代謝産物がゲノム安定性維持に及ぼす影響の解明」</li> <li>・老化関連「老化に際して各種組織器官に共通してあるいは特異的に働く遺伝子群の同定」</li> <li>・関節再生関連「マウスにおける機能的な関節の再生の惹起」</li> </ul> <p>②文理連携の推進ーフロント科学の成果を医療分野へと還元させた場合に生じる恩恵と社会的諸問題を具体的に明示し、それらに対応するために必要な社会制度や法的整備などについての議論を整理することにより、さらに加速する超高齢社会に対応可能な社会基盤の整備に向けた提言をまとめる。また、新たな学際領域としての&lt;生命社会学&gt;の創成とカリキュラムなどへの反映に向けた検討を行う。</p> <p>③医療分野との交流ー最終年度としての交流成果について総括するとともに、今後に残された課題と今後の継続的な交流事業の在り方について議論する。</p> <p>④研究成果の公表ー年2回開催を予定している公開シンポジウムや書籍などを通じ、医療分野との交流を含めた生命科学分野における研究の進展について総括するとともに、生命科学・医療・人文科学・社会科学・健康科学分野の研究者による統合的議論によりまとめられた提言の発信を積極的に行っていく。</p> <p>なお、研究成果の評価については、本事業の研究実施組織である「2016研究ブランディング事業推進部会」が作成する「研究成果報告書」に基づき、「2016研究ブランディング事業自己点検・評価部会」および「2016研究ブランディング事業外部評価部会」による聞き取り調査（事前の書面調査を含む）を1回実施し、年度としての項目別評価と総合評価とをS・A・B・Cの4段階で行う。加えて、最終年度にあたるため、研究期間全体を通じた評価も同様に行う。</p> |